

リスクマネジメント

矢崎グループを取り巻くリスクの発見に努め、リスクの制御とモニタリングを行い、リスクの低減を目的として、リスクマネジメントを推進しています。社長を委員長とする業務適正化委員会において、リスクマネジメントに関する重要事項を定期的に（年2回）審議しています。

矢崎グループ全体でのリスク管理体制の強化をめざし、リスクマネジメント活動のグローバル展開を進めています。2017年度は、中華圏、タイ、ブラジルにおいて本社の支援のもと、リスクマネジメント活動を推進しました。各地域で、管理体制、規則、業務プロセスの適切性などについての網羅的な確認や、重要リスクの特定およびその対策を講じ、

地域ごとに設置した内部統制委員会で改善に向けて議論がされています。

また、より実効性のあるリスク管理をめざし、本社と地域本社メンバーによる合同ワークショップの開催や、生産現場視察等の取り組みも積極的に進めています。



欧州リスクマネジメントワークショップの様子

情報セキュリティ

基本的な考え方

近年、組織化されたプロ集団によるサイバー攻撃が増加しており、その標的は国家・企業を問いません。攻撃手口も複雑で発見しにくいものとなっており、どのような攻撃手口に対しても、現状の情報セキュリティ対策の有効性を検証し、継続的に対策を強化する必要があります。サイバー攻撃によって情報漏えい事件・事故が発生した場合、お客様をはじめとするステークホルダーからの信用低下や利益の損失につながります。

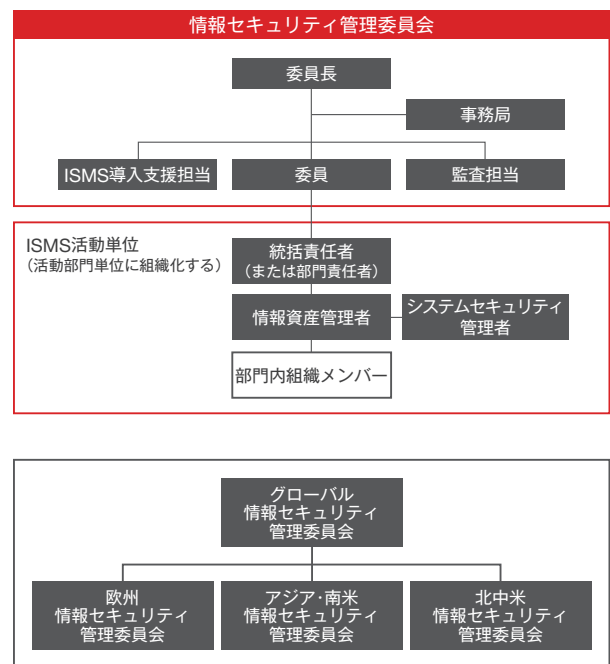
矢崎グループでは、業務上知り得たお客様の個人情報を含むさまざまな機密情報の保護をするとともに、お客様の視点に立ち、製品に関する必要な情報を適切に管理するため、プライバシーポリシーを含む種々のルールを制定し、情報セキュリティへの取り組みに注力しています。

推進体制

矢崎グループでは、「情報セキュリティ管理委員会」を設置し、委員を部門ごとに配置しています。隔月で開催している委員会では、委員25名が各部門の情報セキュリティ活動の状況確認および標準化・共通施策・教育に関する検討を行っており、高いセキュリティレベルの維持に努めています。

欧州のGDPR (General Data Protection Regulation: 一般データ保護規則) 対応のため、グローバルの各地域（欧州、アジア・南米、北中米）を統括する管理委員会を設置して、対応を推進しております。

今後も情報セキュリティ活動を推進することで、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様の信頼獲得に努めていきます。



運用

情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) によるPDCAを1年間で回す活動を継続することにより、セキュリティの維持・強化に努めております。

また、セキュリティ事故発生時には、情報セキュリティ管理委員会に報告し、初動対応の迅速化、再発防止の徹底を図っています。個人情報保護の観点では、法改正にともなう社内規定への反映と教育のほか、社内イントラネットでの個人情報閲覧時には、保護方針を掲示することで注意喚起を行っています。